

公表

事業所における自己評価総括表(児童発達支援)

○事業所名	多機能型事業所重症児デイサービス実のり			
○保護者評価実施期間	R7年12月20日		～ R8年1月31日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30名	(回答者数)	28名
○従業者評価実施期間	R7年10月1日		～ R7年11月30日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年3月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	重症心身障がい児の施設や小児経験の豊富な看護師が複数名在籍しているため幅広いケアに対応ができる。	・スタッフ間で医療的ケアに関する研修を行い、ケアを確実に 行えるように努めています。 ・各児童に対してケア記録のところに申し送りノートを取り入 れることでケアの共有を行い、途切れのない支援を行っていま す。 ・児童一人ひとりのケアを見える化することでヒヤリハットを 防止しています。	外部の研修や定期的な支援会議、毎月の職員会議でのケアの 情報を共有することでよりよいケアが提供できるように務め ています。
2	常勤で理学療法士が在籍しており、毎日のリハビリを提供する ことで児童の身体機能の維持・向上、基本的動作の獲得を目指 すことができる。	・同じプログラムを継続することで変化を分かりやすくし、で きることを増やしていきます。できないことも定期的にチャレ ンジすることで成長に合わせたプログラムでリハビリを行いま す。 ・理学療法士が児童の過ごす姿勢やポジショニングの指導・伝 達を他職種に行い、リハビリ以外の時間でも発達を促し、側弯 や拘縮の予防を行っています。	・利用頻度の少ない児童に対して訪問を行い、現状の確認や リハビリの指導・相談をしています。 ・新しい技術や手技を取り入れており多種多様な児童に合わ せたりハビリを提供できるように研修の参加をしています。
3	保育士が作成する療育プログラムの元、運動遊びや感覚遊び、 製作、季節行事、クッキング(ペロリデイ)、遠足を提供してお り、子どもたちの様子をSNSに載せている。 また外部講師の音楽療法士による音楽療法を取り入れている。	・療育活動で遠足を取り入れ、集団行動を行うことで社会性を 養っていきます。 ・1週間の中で色々な活動を取り入れることで利用回数が多い 児童さんでも異なる療育が楽しめるように努めています。 ・毎日の活動の様子をInstagramにアップすることでその 日の活動の様子や児童さんの様子を知ることができます。	・色々な療育活動を取り入れることで児童さんの変化や気付 きを知ることのきっかけ作りになるように実施しています。 ・医療的ケアの重たい児童さんでも遠足に行けるように看護 師がマンツーマンについてお出かけができるように努めてい ます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者数が多い為、希望した日に入れないことがある	契約後に日数を増やしたいという要望が多い。	R8年4月にくる実を開業予定でいるため希望した日に入れる ように調整していけるように努めていきます。
2	保育所や認定こども園、幼稚園、放課後児童クラブや児童館と の交流、地域の他の子どもと活動する機会がない。	その時期に流行っている感染症や医療的ケアがある児童さんの 安全面と不安が大きい。	保護者の方の意向調査を行いながら、交流する目的や安全面 や感染症との対策を行いながら検討に努めていきます。
3			